

術前ホルモン療法の適応・利点・問題点

閉経後の患者さんは、生活習慣病を含めた合併症を有していることが多く、化学療法の適応とはならない場合もあります。内分泌療法は抗癌剤を用いた化学療法に比較して、副作用が少ないため、こうした方々を対象として、術前内分泌療法が検討されております。最近では、効果の高い第3世代のアロマターゼ阻害剤が導入され、これらとタモキシフェンとの比較が行われ、アロマターゼ阻害剤による術前内分泌療法の有効性が示されております(奏功率 38-76%, 温存率 36-46%)(表4)。したがって、ホルモン受容体が陽性の乳がんで、抗癌剤による治療が適応としない高齢者や合併症をお持ちの方は術前内分泌療法の適応となることがあります。しかし、現時点ではまだ標準的な治療ではありませんので、主治医とよくご相談の上、ご検討ください。